

平成27年度 第1回花巻新渡戸記念館運営協議会の会議録

日時：平成27年7月21日(火)

場所：花巻新渡戸記念館事務室

1. 日時：平成27年7月21日(火) 13時30分～15時00分

2. 場所：花巻新渡戸記念館事務室

3. 出席者

(1) 委員：伊藤新一、内館勝人委員、小原幸子委員、上村正三郎委員、木村清且委員、杉本撰子委員、福盛田弘委員、(計7人出席)

(欠席委員：なし)

(2) 市側：嶽間澤茂新渡戸記念館館長 玉山進同副館長、中島明子主査

4. 会議の顛末

●会議成立の報告

玉山副館長：ただ今から進めさせていただきます。それでは、本日の会議の成立について報告いたします。本日は、運営協議会委員の方々全員出席をいただきました。従いまして過半数以上の出席ですので、花巻新渡戸記念館条例第9条第2項の規定によりまして、会議が成立している事を報告いたします。

●あいさつ

玉山副館長：開会に際しまして、嶽間澤館長よりご挨拶申し上げます。

嶽間澤館長：暑い中、出席いただき感謝申し上げます。まず、平成27年度の職員体制が代わったので紹介します。副館長の玉山進であります。3月に市役所を定年退職し、4月から非常勤として勤務しております。学芸員の中島明子で、賢治記念館の学芸員からこちらの館に異動となりました。前任者の林学芸調査員は、宮澤賢治学会イーハトーブセンターの事務局職員として勤務しているところであります。

平成26年度の入館者は、1万3千人台に落ちまして、いろいろ努力はしていましたが、ほかの施設でも減少している状況にあります。良い方向での兆しとしては、10ページにあります。4・5・6月の入場者数を記載しておりますが、5月・6月が前年度を上回っておりますので、このまま何とか頑張っていきたいものと思っております。昨年4月には、恒例の学校訪問をいたしました。市内小中学校、遠野・北上も含め職員にチラシ・メッセージを配ってまいりました。今年、市内の学校30校に今年度他市町村から異動で転入した職員、小学校46名、中学校23名を対象にPRしたところです。今年度は、学校だけでは不十分と考え、花巻温泉・台温泉・花巻南温泉郷のすべてのホテル旅館を訪問してチラシを置いてくれるよう依頼してまいりました。どこの施設でも歓迎されたところでもあります。特に、志戸平温泉はイベントがあるたびに入れていい旨の話をいただき、今度27日に全国の私立の職員1,000名

が集まる全国大会があるそうですが、その時の資料に加えていただけるとのことです。また、新花巻駅に新たにトヨタのレンタカーができ、過日社長との話の中で、お客様から見どころを聞かれることがあるとのことから、1,000枚のチラシを置かせてもらうことといたしました。東和のフォルクローロでも、この記念館とのタイアップを図りながら首都圏にPRをしたいとのことであり、館の写真を使っていかとの話がありましたので了解し、チラシも置いてもらうこととしました。なんとか、入館者増に向けて頑張っていきたいと思っております。

出来ましたら、観光協会には、あったかいなはん号についてご協力をお願いしたいと思っております。

これからの時間、今年度の事業等についていろいろご意見を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
(挨拶内容一部要約)

玉山副館長： 続きましてごあいさつを頂戴いたします。木村会長お願いいたします。

木村会長： ご苦労さまでございます。毎日のように暑い日が続き、イギリス海岸も水が減っておりまして、ますます露出しそれに伴い人も出ております。来年は、賢治生誕120年ということで、事業の計画をしているところでありまして、また国体の開催年ということであり、入館者が増えることを期待するものであります。

本日は、今年度の事業計画等4つのご協議を頂くこととなりますが、よろしくお願いいたします。
(挨拶内容一部要約)

●協 議

玉山副館長： それでは、協議会規則によって議事の進行は会長が務めるとありますので、この後、議事の進行についてよろしくお願いします。

木村会長： それでは引き続きまして、協議に移ります。協議事項1、平成26年度事業及び利用状況等の報告について事務局から説明をお願いします。

(玉山副館長が資料に基づき、平成26年度事業報告の説明を行う。)

木村会長： ありがとうございます、それでは事務局から説明のありました内容について、なにか質問がありましたらお願いいたします。

杉本委員： 決算の歳入についてですが、図録販売について25年度は日めくりカレンダーが販売額の84パーセントを占めているとのことでしたが、26年度は在庫がないとのこと、今後作らないということですか。

嶽間澤館長： 原価700円で作って、700円で販売しておりました。好評でしたので、来年度、また予算計上して販売したいと考えております。

杉本委員 : PRにもなり、いいことだと思います。

嶽間澤館長 : 結構ほしがる方がおります。

木村会長 : 他にございませんか。

委員全員 : なし

木村会長 : それでは続きまして、協議事項2、平成27年度事業計画について事務局から説明をお願いします。

(玉山副館長が資料に基づき、平成27年度事業計画についての説明を行う。)

木村会長 : ありがとうございます、それでは事務局から説明のありました内容について、なにか質問がありましたらお願いいたします。

木村会長 : 監視カメラは、あまり鮮明ではないのですか。

玉山副館長 : 現在館内に設置している監視カメラは、館内の様子の確認はとれますが、今どきのカメラ機能はもっと鮮明になっておりますことから、館が所有している資料、お借りしている資料、また、来館者の安全を確保することを視点に入れて整備できればと考えております。

木村会長 : カメラを取り換えることとなるのですか。

玉山副館長 : カメラを含むシステムを交換する内容となっております。現在、カメラは2か所設置しており、常設展示室と新渡戸先生の生涯を展示している企画展示室となっております。さらに、エントランスホールを加えて監視できればと考えております。

木村会長 : 外国語での解説は、映像での解説となるのですか。

玉山副館長 : イメージとすれば、動画ではなくて、現在展示しているコーナーごとの画像を提供して、それぞれの国の言葉で音声解説をする内容で考えております。方法としては、スマホやタブレットで各コーナーのQRコードを読み取っていただき情報を取得することとなります。

嶽間澤館長 : 賢治記念館もQRコードを読み取る方法となっております。

玉山副館長 : 現在、市内の各ポイントに賢治モニュメントがありますが、そこにも4か国語のメニューがあり、QRコードを読み取り各国の情報を取得する方法となってい

ます。

上村委員 : 7月の初旬に「稲造と昌介」の図録を送付いただきありがとうございました。早速、佐藤昌介記念会の会員が札幌に19名おりますので、送らせていただきました。今後とも資料の送付について、私どももルートがありますので送らせていただきます。

嶽間澤館長 : まだまだたくさんありますのでよろしくをお願いします。

木村会長 : 他にございますか。

杉本委員 : 11ページの施設維持関係についてですが、この記念館は25年経過しているものの問題がないと思っておりますが、ただ、以前の会議において会議室が狭い等の話があったと思っておりますが、今後どうでしょうか。

嶽間澤館長 : 会議室や講座室があれば理想的と考えます。そもそも新渡戸稲造生涯展の場所は会議や何か企画の時の部屋としており、稲造さんの情報をエントランスに掲げていたようですが、常設することから今の状況になっております。本当は、講座室がほしいと思っております。何かイベントで講師を呼んできた場合、エントランスで行うことにより、来館者がビデオを見れない状況にありますことなどから、要求はしていきたいと考えています。

木村会長 : 先人記念館は、花巻にはありませんので、稲造さんや佐藤昌介さんをはじめ顕彰してきており、この館の役割として先人を顕彰することが念願で、この館を造った時からありまして、梅原先生からも言われておりました。中々実現しない状況にありますが、館長からもぜひ提言していただきたいと思っております。

木村会長 : 他にございますか。

小原委員 : 10ページに友の会のことが記載になっておりますが、どのような状況になっているのですか。

嶽間澤館長 : 小学生のための新渡戸教室とかで、学校関係の利用を促進していければと思っています。3年間中学生のための新渡戸教室、小学生のための新渡戸教室、その次は高校生を対象に実施してきました。中学生を対象に行ったときは、地元矢沢中学校が協力してくれ、100名募集を行い100名入ってくれましたが、翌年小学校を対象に行いましたが、チラシを配るなどをしましたが、12名でした。昨年は、紫波から北上まで遠野を含め4千人の高校生にチラシを配りましたが、参加してくれたのが5名でした。このことから、学校関係に浸透していないと考え、特にも教員対象にチラシを配りましたし、できれば教員を対象に友の会として呼びかけしましたが、ゼロでした。このことから、教員に限定しないで一般の方も

対象にと考えたところ、北上の方とか花巻の観光ボランティアの方々が入会したいということでもありますので、これから進めてまいりたいと思っております。できれば広報に載せたいと思っておりますが、いろいろな資料の提供もあり何百人となれば郵送経費もかさむので、最初は50人程度の募集を考えております。盛岡から年4回太平洋の架け橋の機関誌も提供がありますので、これらの資料も送付したいと思っておりますし、当館の様々な事業の案内も送付したいと考えております。

小原委員： 旅行者の方々が遠くから来館しておりますが、近隣の方がゆっくり回ってゆっくりステイするために何かしら目玉的なものがあれば、また、家族でも楽しめるものがあれば話がつながっていくと思います。学校を通じてもいいと思いますが、地域の偉人でもありますことから、奥様の人物を掘り下げてみるとか、新渡戸さんの人柄とかそういう方面から提供できるユニークな催しがあれば楽しいと思います。

上村委員： 本日、シニア大学で鎌田雅夫君が先人について話をしましたが、佐藤昌介のおじいさん安五郎が花巻の産業振興ということで福島から養蚕技術を導入し花巻の養蚕業の糸口を作ったことなど話され、そのようなことを花巻市の方が知らないのはおかしなことだと思いましたが、それだけ歴史感というものがないと思います。そうしたことからすれば、先ほど館長がお話したように、学校の先生そのものが知らないことですから、花巻には多くの先人がおりますし、先人について教えるのは、実際その人のかかわった場所で教えるのが一番いいと考えます。

嶽間澤館長： 今年6月に、市内の小中高校の校長・副校長・退職校長、教育委員会や教育事務所の職員が入っている日本教育会という組織がありまして、そこに呼ばれて話をする機会がありました。そこで、校長・副校長から教職員の方々に話をさせていただきようをお願いをいたしました。花巻の子供たちに伝えることが記念館の大きな使命と考えています。

私は、よくお話することがありますが、漫画家の黒鉄ヒロシさんが新渡戸さんをこのように評しています。「人が人として生きる上でモデルにするうえで比類なき人だ」と言っています。日本の子供たちが新渡戸さんを勉強すればいじめが起こらないと考えます。少し大げさではありますが、それくらい新渡戸さんの考え方や生き方は慈愛に満ちた、惻隱の情と申しますか寛容の世界を教えてくれる人物と考えています。

木村会長： 平成27年度の事業計画については、よろしいでしょうか。それでは進めます。協議事項3の平成28年度事業計画について説明願います。

玉山副館長： 協議事項3の平成28年度事業計画について説明いたします。例年2回目の運営協議会の開催は、2月の開催となっております。このことから次年度の予算要求へ委員の皆様のご意見を反映させるために、今回の運営協議会で皆様からご意

見を賜り次年度の予算要求へ反映させてまいりたいと考えております。従いまして、資料には二つの項目を掲げており、一つには展示事業について、二つ目には、施設管理についての項目を示しておりますので、委員の皆様のご意見をよろしくお願いいたします。

木村会長：何でもよろしいのでご意見をお願いいたします。

伊藤委員：来年が賢治生誕120年の年となっております。現在、童話村を中心にいろいろ検討しておりますが、賢治記念館からの提案もあり、夜に開け、ナイトミュージアムをしたいとのこと。こちらまで来ることは難しいとは思いますが、いずれ何かの関係でリンクできるようであればと思います。来年は、120年ということで各種団体が色々企画しているところです。それを4月から9月下旬までの間に、特にメインを8月21日から8月27日に絞ろうというものです。賢治さんを皆さんにもっともっと知っていただきたいことと、同じように新渡戸さんも知っていただくために、無理でない範囲で考えていただければと、考えております。

木村会長：どうぞほかの委員の皆さんもお願いします。

木村会長：結構ツアーで来ることとなりますか。

伊藤委員：特別の人以外はないと思いますが、あったかいなはん号のようなものに意図的に組み入れるというような発想がないと難しいと思う。来年の話になりますが、国体の年でもありますし、必然的に人が増えることですから、市の施設の入館者が増やせるように、足の確保と入館料をどうするかということです。例えば、市の施設が国体や賢治120年があるということで、一連の動きをしていただきたいなと思います。是非はあると思いますが、何館かでの共通券や50円引く、100円引くとなった時に、市ではハードルがあって出来ないではなく、この年だからどのようにクリアするか、ぜひ考えてほしいと思います。自分たちで限界があるハードルが高いというのであれば、市にはなじまないと思いますが観光協会が販売促進費や周知促進費という形で置いてもらうやり方もあるのかなとも思っております。いずれ、協会として一館一館の対応は限界がありますので、館の皆さんに力と知恵を借りたいと思っておりました。

あと、来年の話ですれば函館への新幹線が3月に開通することとなります。函館生活圏の方々は来やすくなるので、平泉、遠野、花巻にすぐ来れる環境にあることをセールスしたいと考えています。そこで、中身をどのように訴えていくかということになりますが、平泉・遠野・花巻は極めて近いということや、例えばこの館に関して言えば、新渡戸先生がこのようなことだったと上手に訴えられればと思います。館長さんもお話のように、青少年に伝えたい稲造さんの心を切り口に、特にも修学旅行の場合には、函館は射程距離に入りましたので、構想を考えていきたいと考えています。

嶽間澤館長： 札幌の学校も来る可能性もあります。今、こちらから小学校6年生の修学旅行は仙台に行っていますが、向こうからは、盛岡・平泉そして花巻温泉に泊まっ
てのコースがあります。

木村会長： 盛岡は、手帳を持って歩いている子供たちが非常に多いと思っています。

伊藤委員： たとえば、函館の中学校の旅行には、必ずここを入れましょうというような戦
略もいいと思います。スケジュールで面倒ですけど、札幌の中学校にはお誘い
をかけておりまして、小規模校で札幌といっても市外の学校ですが、定山溪中
では毎年来ていただいております。今考えれば、札幌の中学校でしたのでここに案
内しなければならなかったと反省しています。

木村会長： 北大に行きますと、花巻から来たといえ別扱いされます。非常に花巻は有名
です。

木村会長： どうぞほかの委員の皆さんもお願いします。

内館委員： 違う視点からですが、新渡戸稲造も宮沢賢治も、世界平和を希求した人だと思
います。花巻も非核平和宣言を行っていますが、いま世界の状況をみると内紛が
あり戦争があつたりしています。世界的・国際的に考えた場合に、平和を子供た
ちをはじめ誰でも願うものだと思います。それで、宮沢賢治や新渡戸稲造が世界
平和にどのように関わったかとか、どのような考え方を持っていたかを紹介しな
がら、花巻から世界平和について発信するようなことをできればいいなと考えま
す。子供たちの心に共鳴できるような言葉で呼びかけをして、そして言葉を口ず
さむようなことができるように発信できないかと考えていたところです。記念館
の運営協議会の観点とは違うと思うが、120年の年に合わせてそのようなこと
を考えてみてもいいのではと思います。

木村会長： 大体よろしいでしょうか。28年度は今話があつたようなことを参考に、特徴
のある事業を検討してほしいと思います。

4のその他に入ります。

嶽間澤館長： 報告させていただきます。4月17日に、22本のはなみずきを植樹いたしま
した。(以下、別紙資料により説明)

木村会長： 他にございませんか。

内館委員： はなみずきに関連してですが、はなみずきを矢沢の木に選定しています。福盛
田さんが矢沢振興会の部会長として矢沢の木を選定する担当でした。

木村会長　：　よろしいでしょうか、それでは、これで協議を終了します。

●閉　　会

玉山副館長：　長時間にわたりまして、ご協議ありがとうございました。以上をもちまして平成27年度第1回運営協議会を終了いたします。